

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075700163
法人名	有限会社 あゆみ
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	福岡県嘉徳郡桂川町土師 1967-1 電話 0949-65-5480

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年9月7日	評価確定日	平成21年9月28日

【情報提供項目より】(平成 21年 8月 14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14 年 6 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5人 非常勤 6人	常勤換算 9.85人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,400 円	その他の経費(月額)	18,800 円	光熱費等
敷 金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	④/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(8 月 14 日現在)

登録人数	9 名	男性	4 名	5 名
要介護1	4	要介護2	2	
要介護3	2	要介護4	0	
要介護5	1	要支援2	0	
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青柳医院 飯塚病院 大塚歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者が家族を介護した体験や土木建築の技術を活かして建てられたグループホームあゆみは、訪れる人をほっとさせる和風民家型1ユニットのホームである。自然豊かな住宅地の一角に位置し、入り口の駐車場は春には黄色の花を咲かせる樹木がアーチ状に植えられ、お隣の庭にはたわに実をつけ、色づきつつ柿が入居者や訪問者に季節を告げている。町内会に加入し、公民館の七夕行事に出掛けたり、ホーム夏まつりは地区区長や近隣の方、家族4組が参加しやきそば、秋刀魚焼き、花火で大いに賑わっている。また、運営推進会議メンバーの町担当者の提案で、グループホームが町内に2つであることから、餅つきやクリスマス会等の共催の提案で、入居者や職員の交流が促進している。職員は、カンファレンスで入居者や家族の意向や気づきを話し合い、入居者の生活歴や職歴等を踏まえ日々の生活で役割や楽しみを支援し、時には入居者に添い寝したり、「あかるく暖かい笑顔で、ゆっくり一緒に、みんなで大きな家族を目指します」とのホーム理念を具現化している。現在、重度化している入居者もいるが、状況に応じて往診をお願いできる協力医療機関と連携しながら、介護・看護職員が一体となって支援している。開所7年目を迎え、町との連携で地域密着型サービスのさらなる周知も期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を踏まえ改善計画シートを作成し、成年後見制度等の権利擁護に関する研修会の参加やパンフレットの整備、町内同業者とクリスマス会や餅つき等の行事の共催を通じた交流、入居者や家族の意向を明記した介護計画の整備など、具体的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価について勉強会で周知し、全職員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議実施要領を整備し、町担当者、地域包括支援センター職員、在宅介護支援センター職員、地区区長、民生委員、入居者家族の参加で2ヶ月毎に開催している。ホームが手狭であるため、公的機関の会議室等で開催している。会議では外部評価内容やホーム行事、避難訓練等について詳細に報告し、町担当者から成年後見制度の説明や家族が夜間災害時の対応を質問している。質疑や答弁者名を明記した会議録を整備し、ホーム内に開示している。町内にはグループホームが2つであるため、町担当者の提案でクリスマス会・餅つき・花見等の行事を共催している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 毎月利用料金支払い等に来訪する家族に、入居者の状況を説明したり、入居者毎の食事・入浴・排泄・睡眠等の介護状況や日常生活レクリエーション、介護計画の進捗状況等を記載した月次報告書を家族に送付している。また、玄関靴箱の上には日々の様子や行事のアルバムが置かれ、居間の壁には参加した公民館の七夕行事や夏祭りのスナップ写真が掲示されている。預かり金の控えを発行し、個別出納帳を整備し、家族の確認印がある。かかりつけ医や協力医療機関で健康診断を支援し、随時家族に報告している。入居者や家族にいつでも説明できるように、成年後見制度や地域権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。地区公民館の七夕の催しのお誘いがあり、ほとんどの入居者が参加している。ホーム主催の夏まつりは、区長、近隣の方の参加があり、やきそばや花火を家族とともに楽しんでいる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と交流しながら、ホーム理念である「明るく温かい笑顔で、ゆっくりやさしく一緒に、みんなで大きな家族を目指します」を実践し、理念を大きく掲げしているが、運営規程や契約書に地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」を記載していない。	○	運営規程や契約書等に地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」を明記することで、さらなる交流を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員入職時や毎月の会議、入居者との日々の関わりで理念を共有している。理念を具現化した介護目標の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、清掃活動等に参加している。地区公民館の七夕の催しのお誘いがあり、ほとんどの入居者が参加している。ホーム主催の夏まつりは、地区区長、近隣の方の参加がありやきそばや花火を家族とともに楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について勉強会で周知し、全職員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価を踏まえ改善計画シートを作成し、成年後見制度等の権利擁護に関する研修会の参加やパンフレットの整備、町内同業者とクリスマス会や餅つき等の行事の共催を通じた交流、入居者や家族の意向を明記した介護計画の整備など、具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、町担当者、地域包括支援センター職員、在宅介護支援センター職員、地区区長、民生委員、入居者家族の参加で2ヶ月毎に開催している。ホームが手狭であるため、公的機関の会議室等で開催している。会議では外部評価内容やホーム行事、避難訓練等について詳細に報告し、町担当者から成年後見制度の説明や家族が夜間災害時の対応を質問している。質疑や答弁者名を明記した会議録を整備し、ホーム内に開示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内にはグループホームが2つであるため、町担当者の提案でクリスマス会・餅つき・花見等の行事を共催し、職員の交流もすすみ、サービスの向上に活かされている。地域包括支援センターに入退居状況を情報提供している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	運営推進会議で成年後見制度について町担当者から説明を受け、制度や地域権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。制度活用について説明した家族がいたが、診断書等鑑定に係る費用が高額なため、活用には至っていない。	○	今後も入居者の権利を擁護するために、入居時や状況に応じて成年後見制度等の説明をお願いしたい。また、経緯記録の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料金支払い等に来訪する家族に、入居者の状況を説明したり、入居者毎の食事・入浴・排泄・睡眠等の介護状況や日常生活レクリエーション、介護計画の進捗状況等を記載した月次報告書を家族に送付している。また、玄関靴箱の上には日々の様子や行事のアルバムが置かれ、居間の壁には参加した公民館の七夕行事や夏祭りのスナップ写真が掲示されている。かかりつけ医や協力医療機関で健康診断を支援し、随時家族に報告している。預かり金の控えを発行し、個別出納帳を整備し、家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームや関係機関の意見苦情窓口を明記し、玄関にホームや関係機関の意見苦情窓口を記載したポスターを掲示している。家族会はないが、利用料の支払いで来訪する折や夏祭りで、意見を伺っている。運営推進会議に参加した家族が、議事録に名前が記載されることや夜間災害対応について質問している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は母親の介護経験から、馴染みの関係作りの重要性を理解し、職員が気づきや意見を出し易い職場作りを支援し、開設時から働いている職員も多く、柔軟な勤務調整等で離職者は少ない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	特に採用基準はなく、年齢制限も行っていない。就業規程・雇用契約書を整備し、年次有休休暇や定期健康診断を支援している。職員の休息室は設置していないが、昼食後は随時休みを取っている。研修参加費用や食事代の1部を法人で補填し、定期的に食事を開きストレス発散の場を支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	グループホームケアの7原則を事務所に掲示し、運営規程や重要事項説明書に身体拘束防止について明記し、勉強会で身体拘束や虐待防止について話し合っている。身体拘束防止マニュアルを整備し、運営規程に身体拘束を行う手続きについて明記しているが、高齢者虐待防止に関するマニュアルの整備がない。	○	高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備し、カンファレンスや勉強会等で日々のケアを見直す機会を設けていただきたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修参加を支援しているので、現在実践者リーダー研修受講中の職員もいる。毎月の勉強会で感染症、身体拘束、虐待、接遇について話し合っているが、年間研修計画を作成していない。職員の悩みは、管理者が対応している。	○	実施している勉強会内容や職員の受講希望の研修会等をまとめ、年間研修計画を作成されてはいかがでしょうか。また、整備した日勤・夜勤業務点検表に基づき新規採用職員の研修計画の作成もお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町担当者の提案で、町内の同業者とクリスマス会・餅つき・花見等の行事を共同で開催し、職員間の交流でサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域包括支援センター、介護老人保健施設等の紹介での入居が多い。管理者の元の職場の紹介で入居に至った利用者もいるが、管理者が入院先に面会に出向き、顔見知りであることで安心や納得して入居に至っている。入居希望者には、有料であるが体験入居も案内している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として、またホームの理念である大きな家族として、時には入居者に添い寝をしている。生け花の教授であった入居者の生け花を愛でる職員の眼差しや、入居者との日々の関りについての話し振りは、まさに大きな家族である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式シートで生活歴・職歴・趣味・心身の状況を把握し、アセスメント概要にまとめている。職員が担当制であるため、カンファレンスでは日々に気づきを話し合い、サービス内容に活用している。各入居者毎の日課表に日中の過ごし方や役割を記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に入居者や家族の意向を記載し、カンファレンスで担当者が中心になって気づきを出し合いチームで検討し、計画作成担当者が担当者会議で介護計画を作成しているが、カンファレンスでの話し合いが活用されていない。介護計画は、入居者や家族に説明し、了承を得ている。	○	カンファレンスで話し合った職員の気づきや意見に基づく介護目標を、介護計画に記載されてはどうか。介護計画がより具体的で身近になると思われます。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング評価後、必要に応じて東京センター方式を活用して再アセスメントを実施している。家族には月次報告書で介護計画の進捗状況を報告し、意向を伺っている。3ヶ月毎や心身の状況に応じて随時介護計画を見直し、入居者や家族の了承を得ている。	○	月次報告書に記載している介護の状況や介護計画の進捗状況を活用し、モニタリングや評価記録として整備してはどうか。カンファレンス資料としても活用できると思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望に応じて協力医療機関やかかりつ医受診を支援し、症状の悪化を防止している。以前住んでいた地区の敬老会や行事参加も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関受診だけではなく、かかりつけ医や眼科、皮膚科受診も支援している。看護職員が記載したバイタルやホームでの状況を受診時に持参し、医師の確認印がある。状況に応じて往診もお願いしている。受診状況は月次報告書等で随時家族に報告している。躁鬱疾患で自殺企図があった入居者について、主治医や看護師に指示や助言を得るために、蜜に状況を報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規程に看取りの際の対応を明記している。入居時に看取りマニュアルに沿って指針を説明し、意向確認書を取り交わしている。重度化している入居者もいるが、状況に応じた対応を家族、主治医と話し合う予定である。看取りを経験し、カンファレンスで看取りの対応について話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する規程や個人情報使用目的を明記した書面を整備し、契約時説明して同意を得ているが、掲示していない。運営規程・契約書に守秘義務を明記し、個人記録等のファイルは戸棚に保管している。入居者のプライドを配慮した声かけやアイコンタクトでプライバシーを尊重したケアを実践している。	○	個人情報保護に関する規程や個人情報使用目的を明記した書面の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後それぞれのペースで居室で寛いだり、居間で職員と談笑したりしている。入浴時間や外出等、入居者の意向に沿った支援がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が食卓につき、「いただきます」と挨拶後に食事をしている。入居者の相性や状況を配慮した席を設けている。職員は同じテーブルで伴食しながら、見守りや介助をしている。全員の食事が終わるのを待って「ごちそう様でした」の挨拶をし、下げ膳やマット拭きをする入居者もいる。調査日はちらし寿司で蓋つきの容器に盛られていたが、蓋を開けて中身を確認する男性入居者もあるなど、ゆったりとした穏やかな食事であった。少量であるが、晩酌を楽しむ入居者もいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴を支援しているが、一番風呂等の入浴順番は入居者の意向を確認している。「相撲を観たいので後で」等の要望もある。入居前に頭からお湯をかけられた入居者は入浴拒否をしていたが、本人の納得で入浴できるようになった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム入り口駐車場の掃除が日課の入居者や、華道教授の入居者は玄関や居間に自前の花器に花を見事に活けている。食事時の挨拶や下げ膳、マット拭きなど、入居者の力量や状況に応じて役割を支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴の効能を十分に理解し、レクリエーション計画で毎月外出している。近隣への散歩やスーパーマーケットへの買い物等に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、夜間のみ玄関に施錠している。外出傾向のある入居者もいるため、在籍確認を頻回に行っている。開所時、近隣には理解や協力をお願いしているため、連絡をもらったこともある。無断外出の際は、後からついて行き適当なところあいで声かけをしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器の設置、非常災害時マニュアルの整備、連絡先一覧表や災害時避難場所のマップを掲示しているが、備蓄がない。日中の避難訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練は実施していない。運営者が地元消防団に所属しているため、理解や協力が得やすい。	○	夜間を想定した訓練の実施をお願いしたい。また、昨今の異常な気象現象で大雨等自然災害が多発していることから、賞味期限を考慮して飲料水や食材の備蓄の検討をお願いします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者毎の日課表に水分・食事摂取量を記載している。水分は700cc前後を摂取している。入居者の嚥下や咀嚼を考慮し、食材を柔らかく調理したり、過度に体重が増加した入居者には小さめの食器を利用している。	○	過度に体重が増加した入居者もいるので、栄養のバランスやカロリーの把握をお願いしたい。運営推進会議で町担当者に管理栄養士等の紹介を相談されてはどうか。また、1300cc以上の水分摂取支援もお願いしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム入り口の駐車場は、春には黄色の花がアーチ状に咲きほこり、訪問者を迎えてくれる。塀の向こう側にはお隣の柿の木はたわわに実をつけ、色づきつつ柿が入居者や訪問者に季節を告げている。民家型のホームであるため、玄関上がり口は車いすが使えるように取りはずしできるスロープの用意がある。玄関正面には華道教授の入居者が活けた見事な生花が置かれ、くつ箱上には日々入居者の生活の写真集が置かれている。奥の居間を中心として居室があり、居間には生花、食卓やイス、ソファやテレビが置かれ、入居者がお好みの場所で寛いでいる。居間から草花が植えられた庭が見渡せ、洗濯物が干してある。運営者が土木建築関係者であるため、至るところに和風建築の木目が活かされ、トイレも男女兼用であるが、使い勝手に配慮し、仕切りが設置されている。玄関横の浴室やトイレは換気や防臭を配慮し、換気している。台所が対面式であるため、入居者と話しながら調理や片付けをしているが、食事をつくる美味しそうな匂いが玄関まで漂っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口には目印の花の名前や入居者の写真に名前が書かれ、居室間違いを 防いでいる。クローゼット・ベット・洗面台はホームの備え付けで、本人の馴染みの家具や使い慣れた椅子や思い出のある小物入れが置かれ、家族写真が飾られている。		